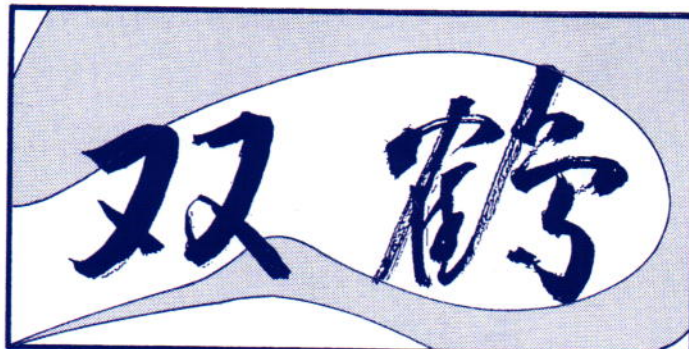


1回(昭2年卒)~
23回(昭24年卒)
卒業生2,835名

1回(明43年卒)~
39回(昭24年卒)
卒業生3,327名

1回(昭23年卒)~
65回(平25年卒)
卒業生28,708名



双鶴同窓会報
発行〒624-0841
京都府舞鶴市引土145
京都府立西舞鶴高等学校

双鶴同窓会
☎(0773) 75-3131

編集 松田 潔
責任者 田中 昭
印刷 オガワ印刷



▲舞鶴港に初入港したサンプリンセス(西港第2ふ頭)▼



戦後13年間にわたり
約66万人の引揚者と
約1万6千柱の遺骨を
受け入れた。
(平引揚棧橋)



1 京都縦貫道及び舞鶴若狭自動車道の全線
開通を目指して

2年後の平成27年春に京都縦貫自動車道及び舞鶴若狭自動車道が全線開通し、京阪神はもとより、中京圏との環状リンクの交通網が整います。観光や物流など「人と物」の動きがよりスムーズで活発になります。また、大型クルーズ客船の寄港が増加し、海からの観光客も増加の一途であります。これらが契機となり、着地型観光を中心とした交流人口の増加やまちの発展へのきっかけとなること、大いに期待されています。

2 クルーズ客船の京都舞鶴港入港

本年5月には、大型豪華客船「サン・プリンセス」(7万7千トン、同2005名)が初寄港しました。また、7月にも同船の寄港が予定されているほか6月・9月には「コスタ・ヴィクトリア」(76千トン、同1,928名)が初寄港します。さらに、7月31日から8月2日には、舞鶴港発着の「はっけいひびいなす」(2万60549トン、同620名)の臨岐の島クルーズが実施されます。

3 引揚記念館資料のユネスコ世界記憶遺産
登録への取組

舞鶴市は戦後13年間にわたり、大陸、シベリヤからの引揚者を温かく迎え入れました。戦後の混乱の中、舞鶴市民は自らの苦しい生活を顧みず、引揚者の出迎えに湯茶接待や慰問にとり組みが行われました。引き揚げられた方々の新たな出発の地となったのが「舞鶴」であります。このような引き揚げの史実を風化させることなく後世に語り継ぎ、平和の尊さを発信することが、今の私達に課せられた使命であると考えています。

そのことから舞鶴市では、引揚記念館所蔵品を貴重な歴史資産として平成26年3月の「ユネスコ世界記憶遺産」への登録申請に向けて、取り組みを進められています。引き揚げの史実と先人の思いやりの「精神」を舞鶴市民として後世に引き継ぎ、世界に発信していきたいと考えています。

「舞鶴引揚記念館資料ユネスコ世界記憶遺産登録を応援する会」が自治連・区長連絡協議会や舞鶴市老人クラブ連合会、NPO引揚語りの会、舞鶴ユネスコ協会、NPOガバナンス舞鶴を発起人として本年3月に発足し、現在、署名活動を展開しています。舞鶴に縁のある多くの皆さんのお力添えをお願いいたします。

(お問い合わせ先) 舞鶴引揚記念館 ☎0773-168-0000

ご挨拶

歴史と伝統を踏まえ 母校も舞鶴も 前途洋々

双鶴同窓会会長 南 房夫



本年の5月27日に舞鶴市は市制70周年を迎えました。

細川藤孝が織田信長から丹後国を賜ったのが天正8年(一五八〇年)のことで丹後支配の根城を宮津に築城しました。天正10年6月2日に明智光秀が織田信長を討つ本能寺の変が起り、光秀の誘いに応じず剃髪し幽斎玄旨と号し、息子忠興に代を譲り隠居し田辺城に移りました。

時、ご存じ田辺城籠城となりま。古今伝授のお話です。幽斎さんは慶長15年8月21日77歳で没し四七九年になりま。その後京極家3代、牧野家10代を経て江戸幕府が倒壊し、明治新政府のもと廃城となりま。

の強い要請もあり昭和18年に両市が合併し、市制70周年を迎えました。明治34年に舞鶴鎮守府が開庁して初代長官、東郷平八郎中将が赴任されてより一三年、大正2年に大森海岸築港されてより一〇〇年、今一海の京都一国際港、京都舞鶴港として大きく世界に門戸を広げ、本年は超大型クルーズ船の来港が目白押しです。

平成2年、竹下内閣の「ふるさと創成資金1億円」で田辺城門が建設されました。これを機に翌年、田辺城籠城と古今伝授をテーマに「舞鶴細川幽斎田辺城まつり」を実施し、5月の最終土日に西地区の祭りとして継承し22年続いています。舞鶴の近世の基礎を築いた幽斎さんと東郷さんの二人は大きな足跡を残してくれました。舞鶴の大きな遺産であります。

平成26年度には京都縦貫自動車道が開通します。これを「ガラシャロード」と名付け、細川幽斎、細川忠興、細川ガラシャ、明智光秀をNHKの大河ドラマにと関連する、京丹後市、宮津市、舞鶴市、綾部市、福知山市、亀岡市、長岡京市と大山崎町の7市1町NHK大河ドラマ誘致推進協議会を立ち上げ、京都府全体の観光振興と地域経済の活性化を目指しています。舞鶴でも市民の賛同署名が始まりました。

田辺城は天正19年には完成と言いますから築城は7年ほどかかっています。慶長5年(一六〇〇年)9月関ヶ原の合戦の

昭和13年8月1日城下町と商港の西地区の舞鶴市と、軍港を有する東舞鶴市が同時に誕生しました。緊迫化する国際情勢を踏まえ、大正12年に閉庁した舞鶴鎮守府が昭和14年に復活し軍事施設が拡充される中、昭和16年12月8日太平洋戦争が勃発し、国防が最優先され西港の施設も軍用化されて、舞鶴鎮守府

たので、本年から2年間をかけたので、本年から2年間をかけた本館と生徒の学んでいます校舎につきましては、耐震工事をすることとなりました。2年後にはリニューアルをされ、学習環境も改善されるものと思っております。

一方課外活動においては、部活動に、生徒会活動に、ボランティア活動に様々な機会をとらえて頑張っています。昨年度、全日制ではソフトテニス、体操、将棋部が全国大会に出場し、他の部ではバドミントン、柔道、水泳部が近畿大会に出場しました。また、吹奏楽部は八十名の大所帯となり府大会において銀賞を獲得しました。通信制では、卓球部が全国大会に出場しました。これら多くの部の活躍に刺激され、後輩達も先輩に負けない成果を目指して、奮闘しているところです。

舞中、舞女の伝統と自負が蘇っているようで同窓生としても誇りに思います。母校も舞鶴も前途洋々であります。結びに歴代校長先生をはじめ教職員の皆さんの本校における教育と生徒指導に対するたゆまぬ熱意と御尽力に深甚の敬意と感謝を申し上げます。

ごあいさつ



向署の候、双鶴同窓会の皆様方におかれましては、ますます御健勝にて御活躍のことと心からお喜び申し上げます。また、日頃から本校の教育活動に對しまして、温かい御理解と御支援を賜り厚くお礼申し上げます。本年度は管理職の人事異動はございませんでした。昨年度に続きまして西舞鶴高校には皆様方の思い

校長 福井秀之

出の建物が、今も多く残っています。一番歴史がありますのが旧制中学校から続く格技場、続いて昭和二十五年(新制二回卒業の年)建設の木造の体育館、本館が昭和三十六年(新制十三回卒業)その後校舎も増築され、新しい体育館が昭和四十一年(新制十八回卒業)の建設でございます。鉄筋の校舎や体育館が建ったのは、京都府北部では西高が最初だったそうです。その分、校舎もだいぶ古くなりまし

現在、全日制は、普通科六クラス、理数探究科一クラスの一年生計七クラス、全校二十一クラスの生徒数八百三十名を数える学校規模となり、府北部の中学校としてますますその存在感を大きくしています。また、通信制では、二百名を越える生徒が在籍し、自学自習という学習形態の中で、仕事や家庭との両立を図りながら高校卒業の資格取得を目指しています。

政治・経済や景気状況につきましましては不透明な状況が続き、今年度の高校生の雇用状況

も昨年に続き厳しい状況でしたが、皆様方のおかげをもちまして就職希望者は全員が決定しました。また、進学につきましては、希望進路の実現に向けて、最後まで粘り強く取り組むことができました。私たち教職員一同、同窓会の皆様を始め、地域の皆様のお力もお借りしながら、全日制と通信制課程それぞれが、地域社会の期待に応える学校となるよう努めてまいりたいと考えています。結びにあたりまして、双鶴同窓会のみならずの御発展と会員の皆様方の御健康・御多幸をお祈り申し上げます。





平成二十四年度評議員会が六月九日に、舞鶴グランドホテルで開催されました。会員約百三十七名が参加し、事業報告・会計報告・監査報告が行われました。
評議員会後に、多々見良三舞鶴市長の記念講演が行われました。

平成二十四年度
総会開催



双鶴同窓会各支部役員

【東京支部】

支部長 山口 文明 (昭36定)
事務局長 澤田 謙二 (昭48高)
「事務局」〒160-0011
東京都新宿区若葉3-4 (澤田)
TEL/FAX 03-3353-7165 (自)

【京都支部】

支部長 小田 彬人 (昭27高)
事務局長 宗方 嘉浩 (昭28高)
「事務局」〒611-0022
京都府宇治市白川鍋倉山14-1-5103 (宗方)
TEL/FAX 0774-28-1507 (自)

【阪神支部】

支部長 福田 徹士 (昭33高)
「事務局」〒666-0143
川西市清和台西5-2-72 (福田)
TEL/FAX 072-799-3735 (自)

◎定時制の会 会長 植村 英人 (昭27定) 本部・理事

◎通信制の会 会長 岩田 護 (平9高) 本部・理事

双鶴同窓会本部役員

会 長	南 房 夫 (昭32高)	
副 会 長	戸 祭 武 (昭22中)	
	飯 尾 幸 子 (昭17女)	
	大 瀧 隆 信 (昭37高)	
	藤 岡 由 美 (昭40高)	
	内 藤 行 雄 (昭41高)	
	小 西 正 純 (昭45高)	
理 事 長	林 田 光 弘 (昭40高)	
副 理 事 長	斉 藤 友 幸 (昭43高)	
庶 務 理 事	中 西 毅 (昭49高)	野村美由紀 (昭55高)
	松 田 潔 (昭56高)	土師千穂 (昭62高)
	竹 田 友 子 (昭63高)	岡本 健 (平9高)
	高 井 奈 都 (平10高)	
会 計 理 事	西 村 和 夫 (昭48高)	
監 査	藤 田 伊 佐 雄 (昭25高)	
	田 中 俊 樹 (昭36高)	
顧 問	福 井 秀 之	校 長
	塩 尻 徹	全日制副校長
	山 下 博 史	通信制副校長
	竹 村 尚 行 (昭47高)	事 務 長
参 与	金 村 九 二 夫 (昭26高)	第7代会長